

がーしゅういんの時間

北久保七海

これから六時間はあつという間に溶けていく
がーしゅういん

印刷機が動いて熱を帯びていく、上に置いていたペットボトルから水滴が滑り落ちる。そして熱を帯びた紙、を運ぶわたし、も忙しく動く。(熱の連鎖がはじまる。) きつく結んだはずの靴ひもがほどける。髪の毛が首に張り付く、のを認識する(のはもう少し先のこと)。

パソコンにつないである卓上扇風機、の接触が悪くなる。ときどき止まっても角度を変えればまた動きはじめた。今日は電源コードを手にもって固定しないと動かない(けど次の週に見たら普通に動いていたりもする)。意外と進んでいるようで進んでいなかったり、戻ったりしているものなのかもしれない。

(他に話そうとしていたことを思い出すとき、砂時計の中身がすべて落ち切ろうとしている。青い砂、が落ちるのを見つめる、砂と砂が静かにせめぎあう。)

見えないものをどうして見ようとするのか

(火花が一発
散るまでに何歩か進んでみる)

印刷機が動く、紙が出てくる

がーしゅういん、がーしゅういん、

(この印刷機はレのフラットでチューニングされているけど、
上のフロアの大きな複合機はミのフラットだった)

がーしゅういん、がーしゅういん、がーしゅういん……

止まらないね

佳境、音の連鎖がはじまる

アツチエレランドで、フォルティシモで！

いつからここはオーケストラだったのか

見えない指揮者が動かしている、がーしゅういんの時間

なにもかも転げ落ちるようにどんどん溶かされていく